



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第45回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

ルール特集編 投手のセットポジション投球

今夏の選手権大会では県予選・全国大会を通じて、ボークを宣告される場面が少なからずありました。マナーの根幹とも言える規則について、改めて確認しましょう。

規則 8-01(b) 「セットポジションでの投球」の規定

投手は、打者に面して立ち、軸足を投手板に触れ、他の足を投手板の前方に置き、ボールを両手で身体の前方に保持して、完全に動作を静止したとき、セットポジションをとったとみなされる。

この姿勢から、投手は、

- ①打者に投球しても、塁に送球しても、軸足を投手板の後方(後方に限る)にはずしてもよい。
- ②打者への投球に関連する動作を起こしたならば、途中で止めたり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

セットポジションをとるに際して、“ストレッチ”として知られている準備動作(ストレッチとは、腕を頭上または身体の前方に伸ばす行為をいう)を行うことができる。しかし、ひとたびストレッチを行ったならば、打者に投球する前に、必ずセットポジションをとらなければならない。

投手はセットポジションをとるに先立って、片方の手を下に下して身体の横につけていなければならない。この姿勢から、中断することなく、一連の動作でセットポジションをとらなければならない。

投手はストレッチに続いて投球する前には

- (a)ボールを両手で身体の前方に保持し、(b)完全に静止しなければならない。

審判員は、これを厳重に監視しなければならない。投手は、しばしば走者を塁に釘づけにしようと規則破りを企てる。投手が“完全静止”を怠った場合には、審判員は、ただちにボークを宣告しなければならない。

⇒**セットポジションをとろうとする投手がサインを見る場合は、両手を離し、片方の手は必ず下におろして身体の横につけていなければなりません。**また、サインを見ている途中で手などを動かすと、投球またはセットポジションへの動作の開始とみなされボークとなります。サインを見終えた後も、そのまま一連の動作で投球動作に入るか、セットポジションの姿勢をとらなければ同様にボークです。

【原注】走者が塁にいない場合、セットポジションをとった投手は、必ずしも完全静止をする必要はない。しかしながら、投手が打者のすきについて意図的に投球したと審判員が判断すれば、クイックピッチとみなされ、ボールが宣告される。

⇒**規則 2-64 に「クイックリターンピッチ」の用語説明と、8-05(e)【原注】に、「クイックピッチは危険なので許してはならない。」と反則投球に規定されています。**どんな場合も、打者の虚をつき通常の投球動作を急に早めたりしてはいけません。

【注1】わが国では、本項【原注】の前段は適用しない。

⇒日本の野球では、セットポジションをとった投手は必ず完全静止をしなければならず、違反は反則投球で“1ボール”です。



【注 2】本条(a)(b)項でいう“途中で止めたり、変更したり、とはwindアップポジションおよびセットポジションにおいて、投手が投球動作中に、故意に一時停止したり、投球動作をスムーズに行わずに、ことさらに段階をつけるモーションをしたり、手足をぶらぶらさせて投球することである。

⇒規則8・01(a)のwindアップポジション、同じく(b)セットポジションともに、規定されている姿勢をとった投手は、打者への投球に関連する動作(ボディースイングやアームスイング)を起こしたならば、途中で止めたり(投球動作の中断)、変更したりしないで投球を完了しなければなりません。投球動作中に、故意に一時停止したり、投球動作をスムーズに行わず、ことさらに段階をつける二段モーションなどは規則違反でボークが適用されま

す。
【注 3】投手がセットポジションをとるにあたっては、投手板を踏んだ後投球するまでに、必ずボールを両手で保持したことを明らかにしなければならない。その保持に際しては、身体の前面ならどこで保持してもよいが、いったん両手で保持して止めたならば、その保持した個所を移動させてはならず、完全に身体の動作を停止して、首以外はどこも動かしてはならない。

⇒セットポジションの要点となる「ボールを両手で保持したこと」と「完全静止(complete stop)」を明らかにしなければなりません。打者や走者を紛らわせるようでは「明らか」とは言えないのです。また、同一投手は、一試合を通して、同じ位置でボールを保持しなければならないのも注意すべき規則でしょう。

【注 4】セットポジションからの投球に際して、自由な足は、

①投手板の真横に踏み出さない限り、前方などの方向に踏み出しても自由である。

②windアップポジションの場合のように、1歩後方に引き、そして更に1歩踏み出すことは許されない。

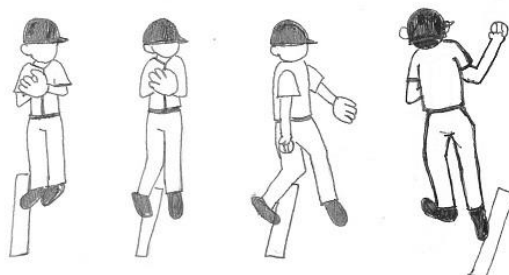
⇒牽制球を投げる場合は、「その塁に向かって(送球に先立って)直接踏み出すこと」、「肩・腰・自由な足が塁の方向へ直接向かうこと」、「軸足を投手板上で踏みかえたり、膝を折ったりしてはいけない」の制約があります。

【注 5】投手は走者が塁にいるとき、セットポジションをとってからも、プレイの目的のためなら、自由に投手板をはずすことができる。この場合、軸足は投手板の後方にはずさなければならず、側方または前方にはずすことは許されない。投手が投手板をはずせば、打者への投球はできないが、走者のいる塁には、ステップをせずにスナップだけで送球することも、送球のまねをすることも許される。

⇒投手板をはずせば「投手」ではなく「野手」となります。

【注 6】windアップポジションとセットポジションとの区別なく、

軸足を投手板に触れてボールを両手で保持した投手が、投手板から軸足をはずすにあたっては、必ずボールを両手で保持したままはずさねばならない。また、軸足を投手板からはずした後は、必ず両手を離して身体の両側に下し、あらためて軸足を投手板に触れなければならない。



※大リーグやプロ野球に影響されず、本来の規則を遵守しましょう。